



学校図書館だより

6月号

令和3年6月
柏市立柏中学校
柏市学校図書館指導員
仲野 真由美

6月になり、アジサイも美しく色づいています。アジサイは花に見える部分が実は装飾花と呼ばれるガクであって、本来の花にあたる部分はその中心にひっそりと隠れているそうです。

一学期も折り返し地点を過ぎました。季節は移り変わり梅雨空ですが、雨音に包まれながら、ゆっくりと物語を味わってみませんか。たくさんの方が図書館で待っています。

北里柴三郎 没後90年



北里柴三郎

(1853.1.29-1931.6.13)

北里柴三郎は日本近代医学の父として知られ、破傷風菌抗毒素（抗毒素とは今日の抗体に当たるもの）の発見、血清療法確立、ペスト菌の発見など、細菌学や感染症の予防と治療に大きく貢献しました。

北里の研究は「病気を未然に防ぐことが医者使命である」という予防医学の信念に基づいています。北里が創設した日本で最初の伝染病研究所（現在の国立感染症研究所）は、フランスのパスツール研究所、ドイツのコッホ研究所とならぶ、世界有数の研究所として高く評価されています。

—— ほるぷ社『人物科学の歴史 北里柴三郎 高峰譲吉』より

*2024年から発行される新千円札
には北里柴三郎が印刷されます。

図書館からのお知らせ



毎週金曜日、お昼の放送で図書委員がおすすめの本を紹介しています。紹介された本は図書館内に展示しています。いつもは手を伸ばさない本でも友だちのおすすめの本、読んでみませんか？新しい本と出会えます。



今月のおすすめ

雨の日には読書！ミステリーをじっくり読んでみませんか？
日常に潜むミステリーです。怖い・難しい話はありません。



『空飛ぶ馬』

北村薫 著 創元推理文庫 913

本と落語をこよなく愛する女子大生と落語家の円紫師匠が出会い、日常に潜む謎を解いていきます。本作では主人公は大学1年生。次作『夜の蟬』では大学2年生となり、主人公の成長とともにミステリーを楽しめるシリーズです。

『和菓子のアン』

坂本司 著 光文社文庫 913

デパ地下の和菓子店「みつ屋」で働き始めた梅本杏子（通称アンちゃん）は、ちょっぴり（？）太めの十八歳。プロフェッショナルだけど個性的すぎる店長や同僚に囲まれる日々の中、歴史と遊び心に満ちた和菓子の奥深い魅力に目覚めていく。謎めいたお客さんたちの言動に秘められた意外な真相とは？

『歌舞伎座の怪紳士』

近藤史恵 著 徳間書店 913

生活に不満はないけど、不安はある。家事手伝いの岩居久澄は、心のどこかに鬱屈を抱えながら日々を過ごしていた。そんな彼女に奇妙なバイトが舞い込んだ。祖母の代わりに芝居を見に行き、感想を伝える。ただそれだけで一回五千円もらえるという。二つ返事で了承した久澄は、初めての経験に戸惑いながら徐々に芝居の世界に惹かれていく。歌舞伎、オペラ、演劇…。どれも楽しい。けれど、久澄には疑問があった。劇場でいつも会う親切的な老紳士。あの人っていったい何者…？

※『ライブラリーサーチ』より一部引用しています

* 柏中図書館に蔵書があります。

このほかにも『日常に潜むミステリー』の本を展示しています。

